

第3回帯広市農業・農村基本計画検討委員会 議事要旨

日 時：令和7年1月15日（水） 18:28～19:07
場 所：帯広市農業技術センター 会議室
出席者：委員11名（別紙名簿のとおり）、事務局11名
傍聴人等：報道関係者1名

<概要>

令和6年11月27日から12月26日までに実施したパブリックコメントの実施結果を報告するとともに、第6期帯広市農業・農村基本計画（改定案）をもとに、改定内容について協議したものの。

1 開会

2 報告

(1) パブリックコメントの実施結果について

事務局より、配付資料中「パブリックコメント意見募集の結果公表」に基づき、パブリックコメントの実施結果の報告を行った。
（質疑等なし）

3 議題

(1) 第6期帯広市農業・農村基本計画（改定案）について

事務局より、配付資料中「第6期帯広市農業・農村基本計画（改定案）概要版」及び「第6期帯広市農業・農村基本計画（改定案）」に基づき、それぞれ説明を行った。
（質疑等なし）

(2) その他

① 全体を通した意見について

<委員>

第6期帯広市農業・農村基本計画は、国の施策に基づいて移行しているので、この内容でいいと思う。ただ、これからは具体策をどのようにしていくかが重要で、今回の計画の改定に留まらず、検討を進める必要がある。私も4月にこちらに来て、この地区は生産者の生産技術のばらつきは当然あるが、生産基盤の整備がものすごく進んでいることで、全体の底上げがされており、素晴らしい効果が出ていると思う。前回の委員会でも話が出ていたが、今後干ばつなどの問題に対してどのように対応していくのかといったときに、一番参考になるのは、篤農家など、その中でもちゃんと

やっつけている農家がどのようなことを行っているのか、検証できる仕組みが必要だと思う。昔は、視察研修など、関係機関が協力して実施していたと聞いているが、そういったものを復活させるなど、具体的な取組を共有できる仕組みを作っていくことが重要だと思う。

<委員>

現計画の策定以降、農業を取り巻く状況が大きく変わっている中、今回の改定で施策を細かく計画に落とし込むのは難しいと思うが、今後も情報の蓄積や発信については考えていかなければならないと感じている。

<委員>

市内に多くの経営体がある中で、経営の水準は上がっていると思うが、今後も若い人たちも含めた底上げや、生産技術の向上に向けた取組が必要だと思う。また、ここ数年の資材高騰により、経営環境は悪くなっている。平成17年と比較して肥料価格が約2倍、平成24年と比較してスプレーヤの価格が2倍になっており、厳しい状況。普及センターや両農協などをはじめ、農家も頑張っており、地元紙でも年に1回農業に関する冊子を出しているが、農家のことを考えた素晴らしい取組だと思う。先程意見としてあった、周りの農家がどのようなことを行っているのか検証できる仕組み作りについても必要な取組だと思う。

<事務局>

昨年の十勝の農協取扱高が過去最高の3,770億円となった。この背景には農業者の努力があるのはもちろんのこと、本日もお集まりいただいている皆様も含め、関係機関との連携があつてのことだと思っている。現在国では「食料・農業・農村基本計画」の本年3月の策定に向けて具体的な施策の検討が進められている。その動向も踏まえて、十勝・帯広に必要な施策について、関係機関の皆様と意見交換を行いながら、更なる農業振興に努めていきたいと考えている。

篤農家についてもお話があつたが、本委員会には指導農業士や農業士もおられ、昨年は小学生を対象として、農業の素晴らしさなどを直接お話いただく機会を設けさせていただいた。今後も篤農家の皆様の知見・スキルをいかに地域で共有し、繋いでいけるか考えていきたいと思っている。

引き続きご意見・ご指導をいただきたい。

② アンケートの回答率について

<事務局>

直近の3回のアンケート回答率について、第5期計画策定時、平成21年度に実施した際には50.5%、現計画の策定時、平成30年度に実施した際には42.6%に減少し、さらに今回改定時は38.6%と減少傾向にある。今回のアンケート調査は、今年度、国の「食料・農業・農村基本法」が改正されたことから、改正法に対する農業者のご意見を聞くため、アンケートを8月から9月の農繁期に行ったことが、回答率低下の要因の一つになったものと考えている。

また、今回のアンケートからの新たな取組として、スマートフォンなどの端末によるオンラインでの回答もできるようにしたことで、約半数の方が端末から回答されており、一定の効果があったものと考えているが、回答率は決して高い結果とはいえないため、今後の回答率向上に向けて、回答された方や関係機関の立場、女性あるいは学生の視点でのご意見を伺いたい。

<委員>

農協でもよくアンケートをしていると思うが、回答率を高める策として、何か実施していることはあるか。

<委員>

事務局から説明があったとおり、今回の回答率減少は、実施時期の影響が大きいと思う。我々も5か年の振興計画の策定にあたって、アンケートを実施する際は、農繁期を外して実施する。今後に向けては、実施時期について検討したらよいと思う。

<委員>

電子媒体を使ってこの結果であれば仕方ない部分もあると思うが、我々も令和8年度の5か年計画の策定に向けて動いているが、こういった厳しい状況においては、人と人との関係、相互扶助、相互互恵といったお互いを思いやる心が大事。5か年計画のアンケートに向けて準備を進めており、青年部の組合員にたたき台のアンケートを回答してもらい、思うところがあれば意見を出してもらう機会を設けたが、予想以上に忌憚のない意見を聞くことができ、アンケートの改善に繋げることができた。また、アンケートの回答率は、計画に反映する際の重要な目安になるため、農協だからできる部分もあると思うが、基本的には1戸ずつ訪問し、無回答でも構わないので、ご回答いただくことを考えている。

<委員>

回答について、1回は催促してもいいと思う。

<委員>

私も今回の回答率減少について、時期的な部分が影響していると思ったが、平成 21 年度も同時期に実施して 50.5%の回答率となっているため、確実に回答してほしい場合には回答を強制するしかないと思う。

<委員>

アンケート用紙に書いている意味がわからず、そういった場合には、自分ではなく夫に回答をお願いしている。最初に書かれている言葉が理解できないときは回答を諦めている。

<委員>

私の妻も同じような状況だった。年齢もあると思うが、若い年代も同じ状況にあるかもしれないし、配偶者の立場としての設問も工夫したほうがいいのかもわからない。

<委員>

その場で回答するように依頼されれば答えるかもしれないが、実施期間が長いと回答すること自体忘れてしまう。

<委員>

今回紙ベースとQRコードで実施したが、どちらが回答しやすいか。

<委員>

断然デジタルの方が答えやすいが、実施期間が長いと、回答を忘れてしまうことは変わらない。

<事務局>

実施時期などについてお話をいただいたが、我々も日頃、なかなか農業現場に行くことができていないため、農協青年部などの団体などと接点を持てるよう工夫をしながら、忌憚のない意見を聞ける機会も設けていきたい。

また、配偶者が回答するには抵抗があったとのご意見もいただいたので、経営主や配偶者、それぞれの立場での問いが同じものでよいのか、次回の参考とさせていただく。

4 閉会

事務局より、成案までのスケジュール等について報告し、委員長及び事務局長からそれぞれ挨拶を行い閉会した。

以上

帯広市農業・農村基本計画検討委員会

委員名簿

(敬称略)

	氏 名	選任区分	勤務先・所属・公職等
1	ヨシダ スミオ 吉 田 速 男	農業者及び農業団体を代表する者	帯広市川西農業協同組合 営農振興部長
2	イケダ ヒデキ 池 田 英 樹	農業者及び農業団体を代表する者	帯広大正農業協同組合 営農振興部長
3	ノハラ ユキハル 野 原 幸 治	農業者及び農業団体を代表する者	川西バイオマス株式会社 代表取締役 北海道指導農業士
4	スギモト ヤスコ 杉 本 康 子	農業者及び農業団体を代表する者	帯広市川西農業協同組合 女性部 部長
5	スドウ キョウスケ 数 藤 恭 輔	農業者及び農業団体を代表する者	北海道農業士
6	コモリ タカヒロ 小 森 隆 寛	農業者及び農業団体を代表する者	株式会社東桜ファーム 会長
7	ドウミ カオリ 道 見 香 織	農業者及び農業団体を代表する者	帯広大正農業協同組合 女性部 部長
8	サイトウ カズナリ 斎 藤 一 成	農業者及び農業団体を代表する者	株式会社斎藤農場 代表取締役 北海道農業士
9	クボタ サトコ 窪 田 さ と 子	学識経験を有する者	国立大学法人北海道国立大学機構 帯広畜産大学 准教授 帯広市農業委員会農業委員
10	サイトウ ミユウ 齊 藤 実 優	その他市長が必要と認める者	農業サークル「あぐりとかち」 代表 帯広畜産大学畜産学部畜産科学課程 食品科学ユニット3年
11	カワハラ ナリト 川 原 成 人	学識経験を有する者	北海道十勝総合振興局産業振興部 十勝農業改良普及センター 次長